

フィールドデザイン論研究

研究代表者 古谷 誠章
(創造理工学部・建築学科・教授)

1. 研究課題

日本社会では情報技術の発達や産業構造の変化、人口移動等による社会・経済情勢の変化に伴い、社会構造が急激に変化している。この変化に伴い各地の住民の生活は絶えず変化を求められており、しかしその変化に対応できず産業の衰退や人口減少といった問題に直面している市町村は少なくない。本研究では、行政区等における目に見えたコミュニティや範囲を超えた広域的な人・文化・地域を「フィールド」として捉え、社会経済情勢の変動と共に変化する住民生活や「フィールド」がもっている価値を発見し、それらを動かしているメカニズムを解明することで、各地の住民の生活が続き発展することが可能なデザイン手法の模索と提案を行う。

行政区を超えた広域な地域「フィールド」づくりの推進や生活構築の観点から、地域に現存するリソースの見直し・住民のまちづくりへの参加等を通じて、地域リソースの有効な活用方法に関する具体的設計指針の改革が不可欠となっている。

これら地域に関する問題に意欲的に取り組もうとする地方都市や建築・都市デザイン関連機関からの委託により具体的な実践に基づくこと、および本研究組織で過去行った10を超える事例の整理から固有な手法・提案から、フィールドデザイン論に展開していく。

2. 主な研究成果

- 2-1. 広島県大崎上島町のカフェ併設型コミュニティスペース「ミカタカフェ」2F改修プロジェクト
- 2-2. 上北山村の豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業に係る調査研究

2-1. 広島県大崎上島町のカフェ併設型コミュニティスペース「ミカタカフェ」2F改修プロジェクト

広島県大崎上島町の古民家を子どもの居場所として運営されているミカタカフェの2Fスペースを「学びたくなる場所」としてセルフビルドによって改修する。地元高校生を中心に地域の大人を巻き込み、協働ワークショップを目的としたフィールドワークが中心であり、地域住民たち主体となって翌年度以降も空間づくりを推進していくためのものである。7月の末と8月の末に実際に現地で施工作業を行い「学びたくなる場所」を共に作り上げた。

2-1-1. 畳や家具などの材料、および「学びたくなる場所」の検討

ミカタカフェの2Fスペースの掃除およびワークショップを行なった。地元高校生とワークショップを行い、着物や家具の活用や畳を残すかどうか、どんな空間にしたいかを話し合った。既存の材料を用いたリノベーションを客観的な視点から検討し、3案のデザイン提案を行なった。



fig1. 小上がり案



fig2. 什器案



fig3. 着物カーテン案

上記提案をもとに、高校生が望む勉強の形をアンケート形式で4つの項目にまとめた。
アンケート結果をもとに、一部使用可能な畳を用いて小上がりを作成し、足が疲れない勉強空間が主体となる施工デザインに決定した。

■アンケート結果				
	A	B	C	D
1.畳の利用方法		3人 ・足が疲れないよう(地べたで長時間勉強はきつい) ・畳はあってほしいけど、色んなスタイルを選びたい	2人 ・入った瞬間畳がいい ・畳とテラスが分けられるのはいい	1人 ・階段に行きときの通路的な役割は必要
2.勉強の仕方・座り方	1人 ・結局机が一番勉強できる	5人 ・座れたら寝転がれる、足も伸ばせる ・和メ洋のマットが混ざっている ・座椅子は欲しい	1人 ・地べたはきつい	
3.押し入れの活用		5人 ・横が仕切られている集中スペース欲しい ・先輩の参考書とかほしい	1人 ・一度はスタンディングでやってみたいが、続けるかは分からない	
4.空間の仕切り方		6人 ・廊下部分に机を置きたい ・外周の狭い廊下にも、机・椅子など2〜3席あったら嬉しい。(窓に並行して座るイメージ) 		

fig4. アンケート結果



Fig5. 協議の様子

2-1-2. 予算内で可能な施工デザインの検討

決定したデザイン方針のもと、実現可能な具体的提案の作成を行なった。使用可能な量の枚数と空間の大きさに対する小上がりの規模や配置を検討し、十分な耐久性をもてる様に小上がりの構造を検討した。地元ホームセンターの材木費用をもとに、必要部材・施工計画を作成した。

2-1-3. 床張り和小上がりの製作

7月27日から31日にかけて施工を行なった。床を合板で貼り直し、小上がりを制作。窓際のカウンターテーブル作成まで仕上げる事ができた。その後、高校生による押し入れの改修案について協議を行なった。



fig6. 床の張り替え作業



fig7. 小上がりの制作



fig8. カウンターテーブル・
高校生のニス塗り

2-1-4. 押し入れ内の家具の製作

8月22日から24日にかけて、押し入れの内部の施工を行なった。押し入れ内のデスクやスタンディングデスクを制作し、小上がりを共有して座りながら、異なる勉強空間にアクセス可能なデザインとなった。計4回の現地でのワークショップや制作活動を共同することで、より細かな提案まで結びつけることができた。



fig9. 家具の制作



fig10. 竣工写真



fig11. 押し入れ空間

2-2. 上北山村の豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業に係る調査研究

本研究は早稲田大学理工学術院総合研究所と上北山村が、産業、文化、教育、地域づくり等の分野において地域振興および相互の交流を深めるとともに、地域の活性化と人材育成に寄与することを目的としている。今年度の研究活動は、上北山村の自然環境を活かしたプログラムの実施を目標に調査研究やアイデアの提案を行った。

2-2-1. 現地調査

上北山村の地域住民とプログラムについての意見交換を行うために、三回の現地調査と意見交換を行った。また、上北山村の地域住民が自立的にプログラムを行っていくための人材育成を行った。具体的にはアフンの森財団による自然体験ワークショップを体験していただいた。



fig12. 和佐又山エリアの視察



fig13. 地元住民との意見交換会



fig14. 旧山乃ホテルバンピの実測



fig15. アフンの森でのプログラム体験

2-2-2. 上北山村の豊かな森を活用した地域活性化のための生物・文化的資源調査

本研究を進めるにあたり、地域の環境特性及び現状を把握するために生物調査を実施した。研究を中心的に進めている小処エリア、和佐又エリアを中心に、猛禽類調査・鳥類調査・哺乳類調査を実施した。



2022 年 9 月

		齢	雌雄	日時	行動
①	クマタカ	成鳥	不明	9/27 10:56-10:57	低空を飛翔する。
②	ハヤブサ	成鳥	不明	9/28 9:15-9:16	中空を餌を持って飛翔する。

2022 年 12 月

		齢	雌雄	日時	行動
③	クマタカ	成鳥	不明	12/13 14:18-14:19	斜面沿いに飛翔する。
④	クマタカ	成鳥	不明	12/13 15:23-15:24	高空をV字飛行で旋回し、谷の右岸へ降下する。

2023 年 2 月

		齢	雌雄	日時	行動
⑤	クマタカ	成鳥	不明	2/3 13:03-13:04	急降下のち、V字飛行をする。
⑥	クマタカ	成鳥	不明	2/4 10:43-10:45	高空でV字飛行をする。

fig16. 猛禽類調査の結果

2-2-3. 村の文化展でのポスター展示

これまでの現地調査や意見交換を踏まえ、ポスターを製作した。これまでの研究内容を多くの地域住民に認知してもらうことを目的に、上北山村文化展で展示を行った。



fig17. 制作したポスター

2-2-4. 旧山乃ホテルバンビの活用に向けての調査

旧山乃ホテルバンビの一部を活用するために、内部の測量や活用するための検討を行った、

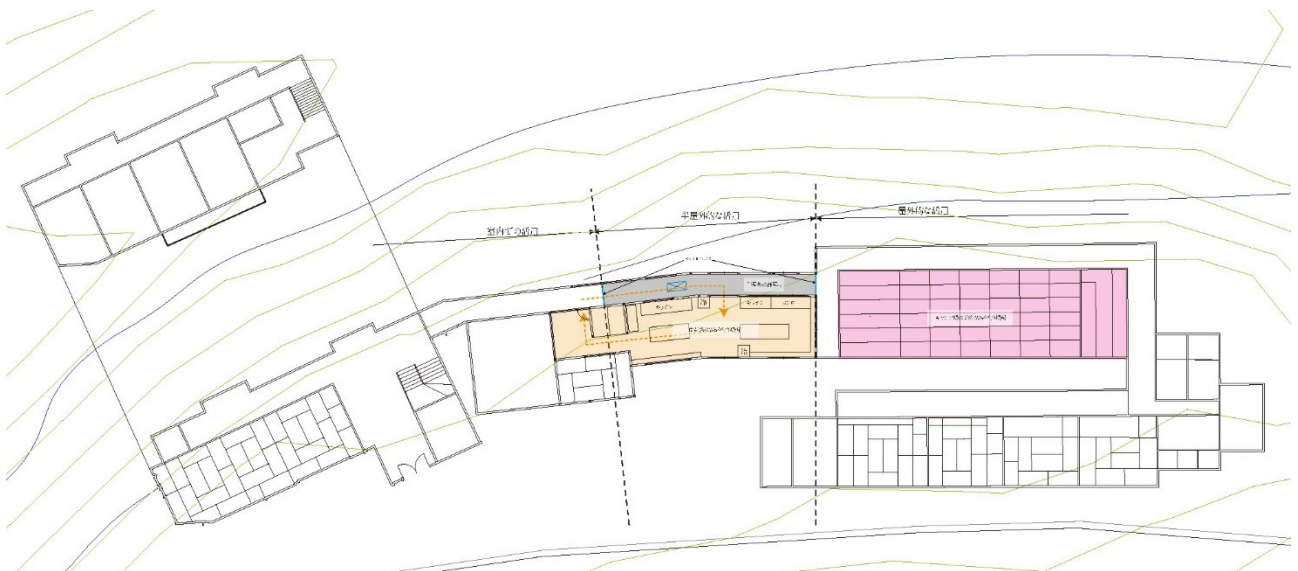


fig18. 旧山乃ホテルバンビ活用提案

3. 共同研究者

根本 友樹（創造理工学部・嘱託研究員）
王 薪鵬（創造理工学部・講師）
宮嶋 春風（創造理工学部・助手）
池田 理哲（創造理工学部・助手）
嵐 陽向（創造理工学部・助手）

4. 研究業績

特になし

5. 研究活動の課題と展望

5-1. 広島県大崎上島町のカフェ併設型コミュニティスペース「ミカタカフェ」2F改修プロジェクト

本研究では、ミカタカフェの2Fスペースを「学びたくなる場所」を地元高校生とのワークショップを基に改修を行った。ワークショップ内で実現できなかった、壁の塗装や製作した小上がりやデスクの色塗りなどは地元高校生によって自主的に補修が行われており、協議そのものが学びの機会となったと考えている。引き続き新たな什器制作などミカタカフェの改修に関わるワークショップを行い、「学びたくなる場所」の実現と、学生への学習・啓蒙効果、および関わる地元住民への意欲向上を促進するための研究・活動を進めていきたい。

5-2. 上北山村の豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業に係る調査研究

本年度の活動では、現地調査や意見交換を通して、上北山村のポテンシャルを活かしたプログラムの提案や、場所の検討を行った。また、村の文化展にて、調査をまとめたポスターを展示したことで、本研究の認知拡大や、これからの村づくりに携わる人材確保に繋がると考えられる。

来年度以降は、和佐又山エリアと小処エリアを中心に、プログラムの実施を目標に活動していきたい。まずはアフアの森財団が行っている植生調査を地域住民が体験するプログラムを行うことと、旧山乃ホテルバンビの一部活用を目標にして研究を進めていきたい。